

## 2022年度 上期 関西・以西ブロック会議報告

- (1) 8/31～9/1、和歌山県和歌山市のダイワロイネットホテル和歌山にて開催されました。今回は紀ノ川農業協同組合受入により3年越しの現地開催、かつ、ブロック会議としては初のハイブリッド開催となりました。参加者は消費者幹事5名、パルシステム関係者14名(内、現地9名)を含む、総勢61名(内、現地43名)が参加し、参加産地は20産地(内、現地13産地)となりました。
- (2) 佐藤副ブロック長(やさか共同農場)の進行により、紀ノ川農業協同組合の宇田組合長、連合会の渋澤専務の挨拶により開会され、生消協、連合会、パル・ミートより方針・実績説明が行われました。
- (3) 産地報告では、紀ノ川農業協同組合より宇田組合長による概要報告の後、児玉副組合長より生産力向上の取り組み、岡副組合長より地域づくりの取り組みとして「麻生津(おうづ)の地域を考える会」報告、西野副組合長よりGAPの取り組み、中原理事より農福連携の取り組みが報告されました。
- (4) その後、次年度開催産地として、たじま農業協同組合(兵庫県)が紹介され、木谷様より「オーガニックビレッジ構想の取り組みを見ていただくことは生産者の励みになる。次年度お待ちしております」と抱負をいただき、オンラインプログラムは終了となりました。
- (5) 会場では続いて、澤村ブロック長よりグループワークに向けて「いかに経営を維持するために生産者・組合員・パルシステムとの関係性を築いていくか、農家として伝えるべきことは何か」「持続可能な農業経営をどう楽しくやっていけるかをテーマで議論いただきたい」と呼びかけられ、会場参加者が7つのグループに分かれて議論が交わされ、その後、各グループの議論が全体で共有されました。
- (6) 翌日は紀ノ川農協視察が行われ、佐田理事の柿・キウイ・桃園地視察と共に、トレーニングファーム部会ふたば塾の新規就農者育成の取り組みについて「新規就農の入門作物は柿が園地再生しやすく寿命が長く取り組みやすい。」とのお話をいただき、吉岡理事からはJAS有機キウイ栽培と特別栽培の桃園地をまわり、「近年、キウイ受粉が早まり雨季と重なるなど、天候影響を受けやすい」「紀ノ川農協は15名のグループ認証含め、全員無農薬のキウイ栽培を進めている」とのお話をいただきました。
- (7) 視察後、澤村ブロック長(水俣・不知火ネットワーク)より、「作る側だけの問題でなく、食べる側の組合員が共に産地を守り、良いものを作る関係ができています。」とまとめられ、宇田組合長より「自組織を見直す良い機会。農業の価値である多面的機能を事業に取り入れ、誠実に消費者と向き合うことが大切。この機会に、精神的にも距離を縮めたい。」と話され閉会となりました。

